

第15回東海障害者歯科臨床研究会

総会および学術大会の報告



大会長 良盛 典夫
準備委員長 橋本 岳英

令和5年7月23日(日)、JR岐阜駅前じゅうろくプラザにて第15回東海障害者歯科臨床研究会総会及び学術大会を、コロナ5類後久しぶりに対面開催しました。大会テーマを「障がい者歯科診療における医療安全」として、参加人数 158 名と多くの方に参加していただきました。



午前、岐阜県歯科医師会水野明広座長のもと、障害者歯科のために長年ご尽力された朝日大学玄景華教授の退職記念講演並びに、新たに赴任された岩瀬陽子教授の就任記念講演を行いました。

玄教授には「障害者歯科を追い求めて。－25年間の臨床経験で学んだこと－」と題し、生い立ちからこれまでの経験で培われた障害者への対応の仕方など素晴らしい講演をしていただきました。

次に、岩瀬教授の講演は、「ともにあゆむ－症例からの学びを通して－」のテーマで、これまで在籍された大学で培われた小児歯科と麻酔科などの豊富な知識と経験をスライドで見せていただき、一つずつの症例に気配りと優しさがうかがえたとてもすばらしい講演でした。



午後は小笠原正理事長による東海地区の障害者歯科の展望を、学会の方向性や地方会の役割を含めてわかりやすくご教授いただきました。

続いて行われた医療安全シンポジウムでは、ヒヤリハット事例を各方面から発表しました。①安田順一准教授による「医療安全の基本」、②岐阜県口腔保健センター障害者歯科診療所の橋本岳英所長による「RCA(根本原因分析)の紹介」、③岐阜県歯科医師会良盛による「一般開業医によるヒヤリハット事例」、④多治見口腔ケアグループはねっと代表朝川世津子衛生士による「障害者歯科における医療安全 訪問歯科衛生士の立場から」と題し、具体的なヒヤリハット事例報告があり、その後、皆様からいただいた34例のヒヤリハット事例集をもとに症例検討会を座長2人とシンポジストとともに症例検討を行いました。

活発な意見交換やいろいろな対処法、アイデアが出て盛会のうちに終わることができました。



最後に今大会を開催するにあたってご指導いただきました、朝日大学の諸先生方、大会運営にご協力いただいた各種団体様・協賛企業様に感謝申し上げます。今後ともこのような素晴らしい大会が継続して対面実施されることを切望しつつ、大会報告とさせていただきます。

